

やすらぎ荘意見交換会

日時:2025年10月8日(水)午前10時から正午まで

会場:やすらぎ荘 大広間

説明会参加者:30名

市事務局:高齢者支援課

【議事概要】

◇事務局 説明

- やすらぎ荘ロビーに設置されたアンケートの集計状況
- 老人福祉センターの利用状況
- いきいきシニアセンターに係る経費
- 市の方針

【質問・意見】

No	質問内容	市の回答
1	施設利用率の積算根拠は何か。利用率だけで利用者が少ないと判断するのはおかしいのではないか。	老人福祉センター3 館の年間利用者数から稼働日数(300 日)を除いた数を分子、分母は 60 歳以上の市民人口です。
2	経費を理由に福利厚生施設を建て替えないという考えはおかしい。	高齢者の憩いの場であることは承知している。高齢者の求めるニーズや時代と共に変化し、老人福祉センターの役割が変化しているため見直しが必要。
3	陶芸サークルには、50 年の歴史があり、100 名近い会員がいる。市の文化活動にも貢献してきた。ログハウスや窯はどうなるのか。	サークルの経緯は認識している。窯を移設できる市有施設はない。陶芸窯は、新設された村岡市民センターをはじめ一部市民センター等にある。
4	鵜沼市民センターの建て替えは 5 年後であり、陶芸窯の移設は難しいと考えるが、議会への説明状況はどうか。やすらぎ荘の窯は、他の施設の窯とは違う。	令和 6 年 12 月議会で、やすらぎ荘は建て替えず、なぎさ荘は機能移転する方針を報告済み。

No	質問内容	市の回答
5	高齢者サークルが市民センターで活動できると考えているのか。また、本日の資料がないのはなぜか。	市民センターは全世代向けの施設であり、各サークルの活動先が、60歳以上に限った施設とは考えていない。資料がないのは、参加者の生の声を聴きたかったため。
6	高齢者の居場所は介護予防になり、結果的に安いのでは。電子化が進み高齢者が取り残されている。複合施設の場合、若い世代との接触による怪我が心配だ。	働く高齢者が増えるなど社会情勢が変化している。施設に来られない方へのサービスも考える必要がある。電子化の課題は認識している。
7	温室が老朽化し、植物の管理やサークルの行き場が心配だ。看護師による健康相談機能はどうなるのか。	温室の老朽化は認識しているが、他施設に温室の新設は困難。健康相談はいきいきサポートセンター（地域包括支援センター）でも対応可能。
8	エレベーターもなく不便。建て替えてほしい。	老人福祉センター以外の活躍の場を一緒に考えていきたい。
9	予算がないから、施設を壊すのか。	予算の問題だけでなく、より多くの高齢者に行政サービスを届けるための見直し。
10	施設には認知症予防の効果がある。存続してほしい。地震時の避難所機能もある。現在しているアンケートの実施結果を提供してほしい。老人福祉センターをなぜ建てたのか。	次回意見交換会の機会にアンケート結果を共有する。 施設の設置経緯は老人福祉法に基づくもの。
11	存続を希望する。規模を縮小してでも、この場所に機能を残せないか。	機能を分散していくという観点で、今後も意見を交換しながら考えていきたいと思う。
12	代替施設は具体的に何か。地域の縁側などでは不十分だ。	活動内容によって適切な場所は変わる。一律に地域の縁側で活動してほしいということではない。
13	廃止の具体的な時期はいつか。跡地利用が決まっていなければ更地にする必要はないのでは。	正式決定ではないが、令和 9 年度末(令和 10 年 3 月 31 日)が一つの節目だと考えている。跡地利用は未定。

No	質問内容	市の回答
14	施設を廃止した場合、浮いた予算の振り分け先を説明してほしい。	様々な福祉の課題がある。 次回紹介できるよう検討する。
15	説明会が毎回進展していない。次回の意見交換会時には、各サークルの移設先等の具体的な分散案を市に提示してほしい。	今回意見を聴き、次回は、より具体的な話を一緒に考えられたらと思っている。
16	跡地は売却するのではないか。	現状、売却するという情報はない。
17	議事録は作成するのか。	記録は取っており、意見をまとめてフィードバックする。

以 上